

◆ 自動ブレーキ装置 ◆

立ち止まり君

《取扱説明書》

このたびは、(株)松永製作所の製品をお買い上げいただき、ありがとうございます。

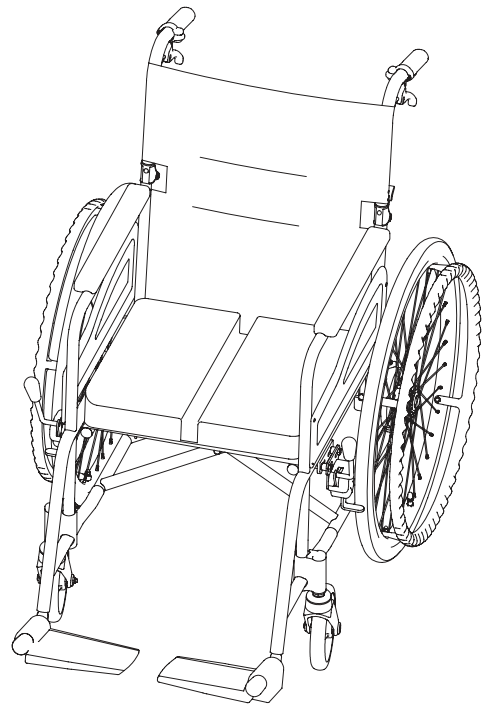
この取扱説明書には、お客様が安全に正しくご使用していただくために必要な注意事項や使用方法が説明してあります。ご使用になる前に必ずお読みください。また、車いすの取扱説明書も合わせてお読みください。

この「立ち止まり君」は、ブレーキのロックをかけ忘れ不意に使用者が立ち上がった場合でも車いすの後輪を自動的にロックすることで転倒を防ぐ補助機器です。

車いすの乗り降りの際には、必ず車いすに装備されている駐車用ブレーキを使用してください。

ご使用まえに

- ◆必ず車いすに装備されている駐車ブレーキを使用してください。
(「立ち止まり君」は万一の際を想定した補助機器です。)
駐車用ブレーキとしての使用はしないでください。
- ◆各部のボルト類の調整は行わないでください。調整が必要な際はお買い求めの販売店までご相談ください。
(装置が故障したり、自動ブレーキが作動しなくなる恐れがあります。)
- ◆座面に強い衝撃を加えないでください。勢いをつけて座らないでください。
(装置が故障して、自動ブレーキが作動しなくなる恐れがあります。)
- ◆座面(クッション)の上に、さらにクッションを載せたり、カバーをかけたりして使用しないでください。
(自動ブレーキ装置が働かない恐れがあります)



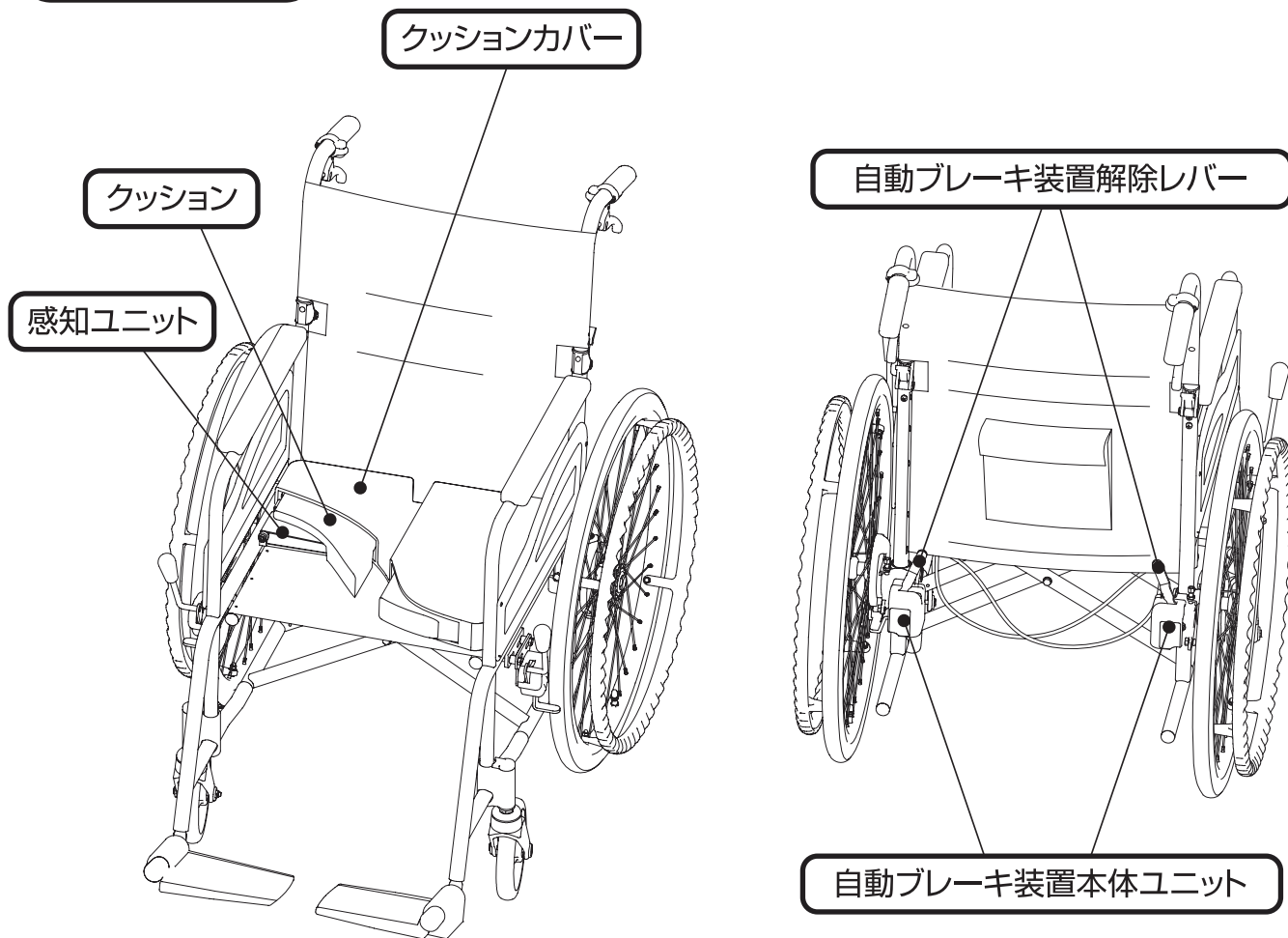
⚠ 注意

- 車いすを上げた際にもワイヤーが座パイプ等に挟まっていないか確認(各部)してください。
(自動ブレーキ装置が効かず、転倒・転落事故等の原因となります。)
- クッションを取り付けた場合には、必ず自動ブレーキ装置の作動を確認してから使用してください。
(クッションが内部部品に挟まったりして、自動ブレーキ装置が働かなくなる恐れがあります。)
- ワイヤーを引っ張らないでください。
(ワイヤーが伸びたり、ちぎれたりして自動ブレーキ装置が働かなくなる恐れがあります。)

⚠ 警告

- 異常がある時は直ちに使用を中止してください。
(転倒・転落事故、ケガ等の原因となります。)
- 車いすを移動したあとは、すぐに自動ブレーキ装置を自動ブレーキ作動状態に戻してください。
(使用時に自動ブレーキ装置が働かず、事故の原因となります。)

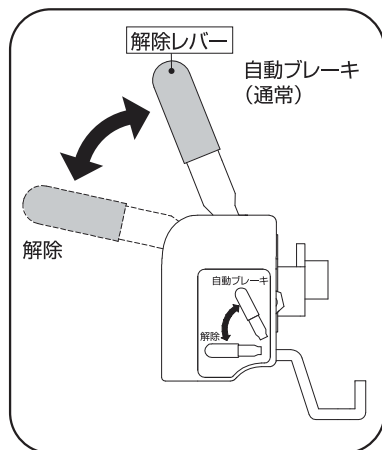
1. 各部名称



この説明図の車いすは一例です。お買い求めになられた車いすと異なる場合があります。

<自動ブレーキ装置解除レバーの使用方法>

- 車いすに人が乗っていない場合に、自動ブレーキが掛かります。人が乗っていない状態で、車いすを移動させたい場合などには、自動ブレーキ装置解除レバーでロック解除を行うことが可能です。ただし、解除したままでは自動ブレーキ装置が動きませんので、このロック解除レバーの使用には十分に注意してください。



<解除方法>

- 解除レバーを下げると自動ブレーキ装置のロックが解除出来ます。

<通常状態(自動ブレーキ作動)>

- レバーを上げると自動ブレーキ装置が働きます。(通常は上げておいてください。)

⚠ 警告

自動ブレーキ装置の解除レバーの使用には十分に気をつけてください。

車いすを移動した後は、すぐに自動ブレーキ装置を通常状態にもどしてください。

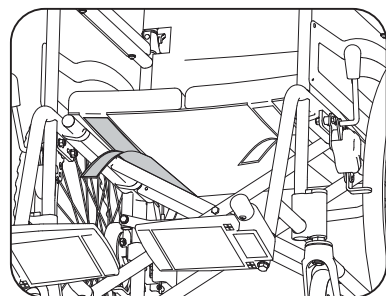
(使用時に自動ブレーキ装置が働かず、事故の原因となります。)

⚠ 注意

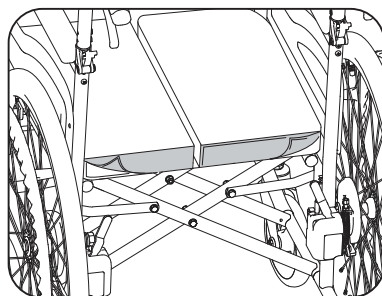
- 解除レバーの操作は必ず手で行ってください。足などで行わないでください。
- 移動・使用の際は必ず自動ブレーキ解除レバーの位置を確認してください。(自動ブレーキ装置が働かず、事故の原因となります。)

<クッション(カバー)の外し方>

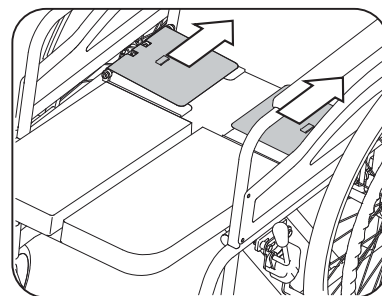
●クッションを交換したい場合、クッションカバーを洗いたい場合などにはクッション(カバー)を取り外すことが可能です。



①座面下のマジックテープを剥がします。

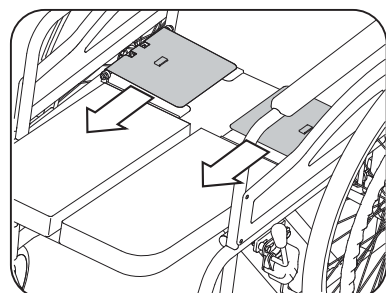


②クッションカバー後部のマジックテープを剥がします。(左右共)

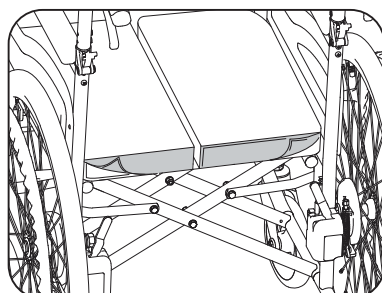


③ 内部の部品をゆっくりと引き出します。この時、ワイヤーを引っ張らないでください。

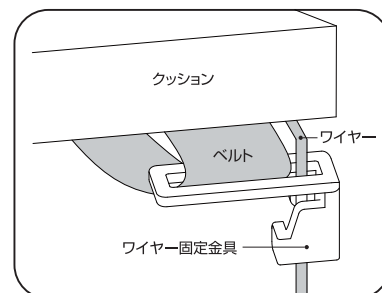
<クッション(カバー)の取り付け方>



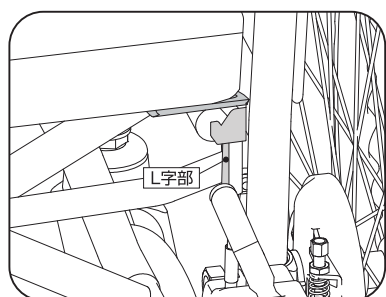
①内部の部品をゆっくりと入れます。この時、ワイヤーを引っ張らないでください。



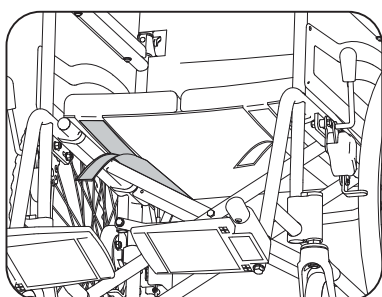
②クッションカバー後部のマジックテープを付けます。(左右共)



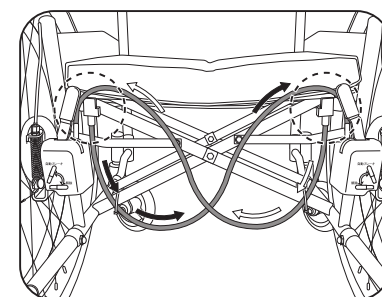
③ワイヤー固定金具にベルトとワイヤーを通して下さい。(左右共)
※図は右側です。



④L字部を下向きにしワイヤー固定金具を取り付けてください。(左右共)



⑤座面下のマジックテープを付けます。



⑥ワイヤーの取り回しがO形状になっているか確認してください。

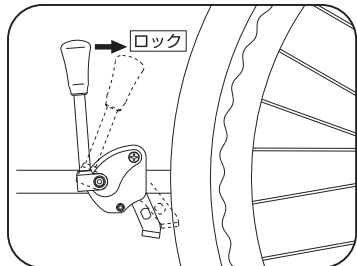
⚠ 注意

- ワイヤーを持って引っ張り出さないでください。
(ワイヤーが伸びたり、ちぎれたりして自動ブレーキ装置が動かなくなる恐れがあります。)
- クッション(カバー)を取付けた場合には、必ず自動ブレーキ装置の作動を確認してから使用してください。
(クッションやカバーが内部部品に挟まったりして、自動ブレーキ装置が動かなくなる恐れがあります。)
- クッションを取付けた時、ワイヤーの取り回しに注意してください。
(ワイヤーが曲がったり、座パイプに挟まったりし、自動ブレーキ装置が動かなくなる恐れがあります。)

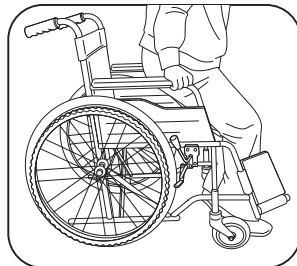
2. 使用方法

◆通常の車いすと使用方法は基本的に変わりません。車いすの取扱説明書も合わせてお読みください。

<乗る場合>



①車いすの駐車ブレーキをロックします。



②座面にゆっくりと座ってください。



③車輪の自動ロックが解除されます。駐車用ブレーキを解除し車いすを操作してください。

⚠ 注意

- 必ず車いすに装着されている駐車用ブレーキを使用してください。
- 座面には深く腰掛けるようにしてください。
(前の方に腰掛けると、車輪のロックが解除されず車いすを動かすことができません。)

<降りる場合>

◎駐車用ブレーキをロックし、フットサポートを上げ、ゆっくりと車いすから降りてください。(車いすの取扱説明書を参照してください。)

◎万一、駐車用ブレーキのロックを忘れ車いすから降りた場合には、自動ブレーキ装置が働きます。

⚠ 注意

- 必ず車いすに装着されている駐車用ブレーキを使用してください。
- 車いすに乗っていない状態で車いすを動かす際には、必ず自動ブレーキのロック解除操作を行ってください。
(自動ブレーキ装置がロックしたままの状態では、車いすを無理に動かすと、床を傷つけたり、車いす、装置の故障につながり自動ブレーキ装置が動かなくなる恐れがあります。)

<折りたたみ方>

◎フットサポートを上げ、座面(シート)の前方と後方の中央を同時に持ち上げます。(車いすの取扱説明書を参照してください。)

◎折りたたんだ後は、ワイヤーが挟まったりしていないか確認してください。

⚠ 注意

- 必ず車いすに装着されている駐車用ブレーキを使用してください。
- 車いすに乗っていない状態で車いすを動かす際には、必ず自動ブレーキのロック解除してください。
(自動ブレーキ装置がロックしたままの状態では、車いすを無理に動かすと、床を傷つけたり、車いす、装置の故障につながり自動ブレーキ装置が動かなくなる恐れがあります。)

<広げ方>

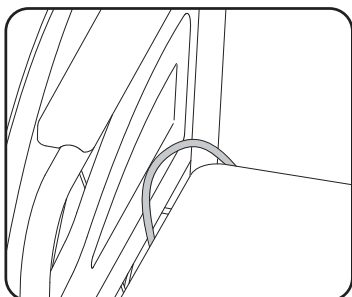
◎通常の車いすと同様に、座面(シート)の端(右または左)を下に押し下げます。(車いすの取扱説明書を参照してください。)

◎広げた後は、クッションの位置を直し、ワイヤーが挟まったりしていないか確認してください。

◎座面の中央(クッションの割れ目付近)を押し下げても車いすは広がります。

⚠ 注意

- 手や指を挟まないように十分注意してください。
- 車いすを広げた後は、クッションの位置がずれていないか確認してください。
(自動ブレーキ装置が動かなくなる恐れがあります。)



⚠ 注意

- 車いすを広げた際に、ワイヤーが座パイプ等(各部)に挟まっていないか確認してください。
(自動ブレーキ装置が動かず、転倒・転落事故等の原因となります。)

5. 「故障かな?」と思われる時に

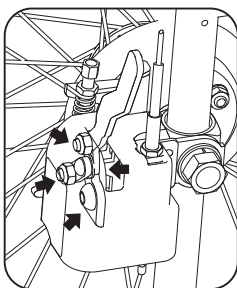
- ◆ご使用中に、「故障かな?」と思われるトラブルが発生した時には、修理を依頼する前に下記の項目を確認してください。
- ◆無理に調整を行うと、自動ブレーキ装置が動かなくなる恐れがあります。下記の項目を確認しても直らない場合には、すぐに使用を中止し、販売店までご連絡ください。

トラブル	確認点	対処方法
人が降りても自動ブレーキがかからない	・自動ブレーキのロックが解除になっていませんか?	自動ブレーキの解除レバーを通常状態に戻してください。(⇒解除レバーの使用方法)
	・ワイヤーがねじれたり、引っかかったり、パイプの間に挟まったりしていませんか?	ワイヤーのねじれ、引っかかりを除いてください。
	・本体にごみ等が挟まっていますか?	ゴミ等を取り除いてください。(取り除くことが難しい場合には無理に行わず、販売店までご連絡ください。)
人が乗っても自動ブレーキが解除されない	・前の方に腰掛けていませんか?	座面には奥のほうに深く腰掛けてください。(感知ユニットが後方にあります)
	・ワイヤーが外れたり、切れたりしていませんか?	販売店までご連絡ください。
	・ワイヤー止め金具部に隙間が出来ていませんか?	ワイヤー止め金具の調整をしてください。(⇒ワイヤー止め金具の調整)
車いすを動かすとカラカラと音がする	・前の方に腰掛けていませんか?	座面には奥のほうに深く腰掛けてください。(感知ユニットが後方にあります)
	・ワイヤー止め金具部に隙間が出来ていませんか?	ワイヤー止め金具の調整をしてください。(⇒ワイヤー止め金具の調整)

6. お手入れの方法

- ◆清掃は、泥やホコリを乾いたタオル等で取り除くようにしてください。ホースなどで直接水をかけないでください。装置内部に水滴が残り、さびの原因となります。
- ◆車いすに異状がある場合には、販売店で点検・修理を行ってください。そのままの状態でご使用になると、使用中に破損し、事故の原因となります。

<注油箇所>

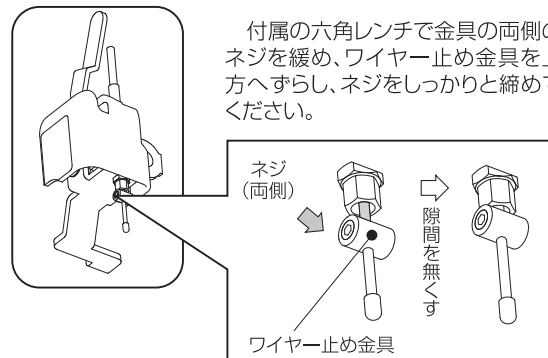


装置本体のリンク部分にスプレーグリス(延長ノズルタイプ)を使用して注油してください。カバーの隙間(レバー部分)から注油していただけます。

<ワイヤー止め金具の調整>

※調整に自信が無い場合は、無理に調整をせず、販売店までご相談ください。

ご使用中に自動ブレーキ装置からカラカラと音がする場合には、ワイヤー止め金具部に隙間が出来ていないか確認してください。隙間がある場合は、ワイヤー止め金具の調整を行ってください。



<アフターサービス>

- ◆万一故障の場合には、お買い上げいただきました販売店、または(株)松永製作所までご連絡ください。

<販売店>



株式会社 松永製作所

〒503-1272 岐阜県養老郡養老町大場484
TEL0584-35-1180(代) FAX0584-35-1270
URL <http://www.matsunaga-w.co.jp>